



平成 30 年 3 月 7 日

各 位

会 社 名 東洋製罐グループホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 中井 隆夫
(コード番号 5901 東証第一部)
問 合 せ 先 執行役員総務部長 小笠原 宏喜
(TEL 03-4514-2001)

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月期第 4 四半期において特別損失を計上するとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の業績予想について下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

平成 30 年 3 月期第 4 四半期において発生が見込まれる特別損失は以下のとおりです。

※金額は概算

		連結	個別
特別損失	①減損損失	510 億円	—
	②関係会社株式評価損	—	190 億円

①減損損失

- a. 当社の連結子会社である Stolle Machinery Company, LLC は、平成 23 年 11 月の買収以降、中国・中東向けを中心として順調に販売を伸ばしてまいりましたが、近年の中国を中心とした競合他社の台頭による販売価格の下落、一昨年の世界大手製缶メーカーの合併による設備投資の減退に加えて、中東の政情不安もあり、当初想定していた売上高の伸長が見込まれないことなどから、米国会計基準に基づき同社の持株会社である Can Machinery Holdings, Inc. において減損処理をおこない、のれん約 215 億円、無形固定資産約 155 億円を減損損失として平成 30 年 3 月期第 4 四半期の連結決算において特別損失に計上する見込みです。
- b. 当社の連結子会社である東洋製罐株式会社において、近年の飲料用空缶および蓋、その他の金属缶の需要の減少にともない石岡工場、滋賀工場、千歳工場の固定資産について減損処理をおこない、約 125 億円を減損損失として平成 30 年 3 月期第 4 四半期の連結決算において特別損失に計上する見込みです。

- c. 当社の連結子会社である日本トーカンパッケージ株式会社において、福岡工場、厚木工場などの固定資産について減損処理をおこない、約 15 億円を減損損失として平成 30 年 3 月期第 4 四半期の連結決算において特別損失に計上する見込みです。

②関係会社株式評価損

上記①a.に記載した Stolle Machinery Company, LLC の持株会社である Can Machinery Holdings, Inc.における減損損失の計上にともない、当社が保有する同社株式について関係会社株式評価損として約 190 億円を平成 30 年 3 月期第 4 四半期の個別決算において特別損失に計上する見込みです。

なお、本特別損失につきましては、連結業績に与える影響はありません。

2. 業績予想値の修正

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 790,000	百万円 30,000	百万円 31,000	百万円 16,000	円 銭 78.87
今回修正予想（B）	790,000	30,000	31,000	△22,000	△108.45
増減額（B－A）	0	0	0	△38,000	
増減率（％）	0.0	0.0	0.0	－	
（ご参考）前期実績 （平成 29 年 3 月期）	779,469	36,184	36,107	12,190	60.09

平成 30 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 21,000	百万円 11,000	百万円 10,000	円 銭 49.29
今回修正予想（B）	21,000	10,000	△12,000	△59.15
増減額（B－A）	0	△1,000	△22,000	
増減率（％）	0.0	△9.1	－	
（ご参考）前期実績 （平成 29 年 3 月期）	18,214	8,943	9,450	46.59

3. 修正の理由

【連結】（直前の業績予想公表日：平成29年10月31日）

売上高、営業利益および経常利益は、概ね前回予想通りに推移する見込みです。親会社株主に帰属する当期純利益は、上記 1. ①のとおり特別損失を計上することにより前回予想を下回る見込みです。

【個別】（直前の業績予想公表日：平成29年5月15日）

売上高は、概ね前回予想通りに推移する見込みです。経常利益は、海外子会社への外貨建て貸付金などの外貨建債権債務にかかる為替差損を計上することにより、前回予想を下回る見込みです。当期純利益は、上記 1. ②のとおり特別損失を計上することなどにより、前回予想を下回る見込みです。

以上の理由から、平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の通期連結業績予想および通期個別業績予想を修正いたします。

なお、平成30年3月期の期末配当金につきましては、当初予定と変更ございません。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上